

地域創生総合戦略検証に係る有識者会議

日 時	平成 28 年 11 月 11 日（金）午前 10 時～12 時
場 所	西宮市役所本庁舎 541 会議室
出席委員	蟻田委員、尾上委員、角野委員、清水委員、松田委員
事務局	今村市長、松永副市長、掛田副市長、田原政策局長、須山政策総括室長、 四條政策推進課長ほか
会議の公開	公開
審議等議題	西宮版総合戦略の平成 27 年度進捗状況等について ・平成 27 年度の進捗状況の中でも国の交付金を活用した地方創生先行型交付事業について意見を頂いた。また、現在取組みを進めている産官学の連携を中心に今後の取組みに関する意見を頂いた。

(主な意見)

■地方創生先行型交付事業（国交付金事業）について

【甲子園観光案内所】

- ・来場者数が少ない。物販ではなくビジターセンターとしての役割を重視するのであれば甲子園駅よりも歩き回れるところがいっぱいあるところがよいのでは。
- ・甲子園駅を出てすぐのところにあるが、外国の人がみてもツーリストインフォメーションと分かるようなしつらえや外観があればよい
- ・西宮はデザイン力もあり、市民の感性も非常に高いところなので、商品の展示もワクワクするような形を考えると出入りもニーズも増えるのではないかな。
- ・駅前周辺整備をしているがバスの案内等も一緒にできるとよい。
- ・外国では駅からクマの足跡が続いてインフォメーションまで誘導するような仕掛けがある。駅からインフォメーションまで導くような工夫があるとよい。
- ・商品を出していても、他社と一緒にだとあまり派手にしてはどうかと遠慮がでる。期間限定で 1 社に貸し出すなど、このような施設で遠慮が無くなる仕組みづくりは研究課題ではないか。
- ・阪神のスペースを借りている枠の中で何が出来るかはある。
- ・今はこの場所だけだが、今後、西宮のインフォメーションをどういう場所でどういう方向で展開していくか総合的な議論がいる。

【子供・子育て支援総合推進事業】

- ・27 年度はシステム開発までとなっている。28 年度からは利用実績があるとのことなので合わせて報告したほうがよい。
- ・赤ちゃんテントの実績が 1 回の理由と今後の課題は
(市：既製品だが大きくて設置に手間がかかるため利用が少なかったと考えている。
 今後は活用の研究と周知をしていく。)

【にしのみや子育てガイド、子育て便利マップ】

- ・QRコードをありとあらゆるところにつけると色々な情報へ導くことができるのではないかと（赤ちゃんの駅にもQRコードをつけたらよい）

【学校給食における食物アレルギー対策事業】

- ・27年度はシステム開発までだが28年度中の運用実績も合わせて伝えてもらうほうがいい。

【交付金事業など事業全般】

- ・こういう形で実際に数字を投げられているのでそうなんだろうと理解するが、その結果をフォローしていくためにどうするか、次に進めるためにどんな発見があったか、継続するためにこうしていこうとか考えて欲しい。
- ・検証ではどのような指標を設定するかが大事。これからの課題として具体的な検証ができる目標値を考えてもらいたい。
- ・実施だけに予算を組むのではなく、終わった後に発信するための費用も必要。
- ・利用者へのアンケートなど声を聞く仕組みがあるとよい。
- ・官民連携の際は、成功をどこにおくのか、コンセプトをどうするか等をあらかじめ決めておくことが必要。プレイヤーに何を期待するのかあらかじめ文書化しておくとうい。責任分担も分かり活動しやすい。

■産官学連携の取組みについて

【企業や大学、地域のつなげ方など】

- ・中小企業としては大学と連携できるのは非常にありがたい。どのような研究をしているかなど大学のリストがあればいいと思う。
- ・大学側も連携については問題意識をもっているが、個別の付き合いで連携が生まれているのが実態。
- ・学内のシーズと地域のニーズがマッチしていない状況もある（研究内容ではなく、単に人手が欲しいということがある）。
- ・継続性の問題で学生は卒業していく。何年にも渡って企業、地域と関わるには相互に限界と可能性を理解しておく必要がある。
- ・産官学連携となっているが本当は金（金融）が入れるようにしたい。もっと横串をさせるように出来ればよい。
- ・学生に人手を求めているという話は、実際にそのレベルの部分が多いのではないかと。
- ・大学と企業の連携は、企業にある程度リードして頂ければと思う。行政が担う部分は地域との連携ではないかと。
- ・企業と地域の連携は結構重なっている部分があるので、もう少しうまくつなげられるプロジェクトがあると面白いし、西宮らしいと思う。

【大学生など若い人に対する取組み】

- ・ 県内大学の卒業者が県内企業へ就職するのは限界がある。就職はしないけれど住みに戻ってくる子を増やしていくことになるのではないかと。そのためには西宮を好きになって卒業するという部分がある。
- ・ サードプレイスとなる小さなハブのようなものがあるといい。お試し活動のような第一歩を踏み出せる場所づくりがあれば。
- ・ 大学の連携には教育的な面、研究事業的な面がある。文系の大学が多いので研究的な面は難しいかもしれないが教育的価値があることは非常に実感する。
- ・ 学生の取組みを市としてアピールされると、親御さんや親戚の方が見るなどもっと広がっていくのではないかと。

【大学に関する情報の提供】

- ・ ファシリティとして大学にどんな先生がいますというリストがあるとよい。辞書をつくる活動だと思うがイベントが無いと使わないのでイベントをつくることも必要。
- ・ 大学のホールなど使える設備の情報もあるとよい。
- ・ 大学の法人は一生懸命、講堂やホールを貸したりしているが、どういうルートでされているか分からないところがある。

【大学が行う社会人教育など】

- ・ 大学のリカレント教育として社会人が勉強して力をつけて、よりクリエイティブな仕事ができる仕組みづくりがあるといい。
- ・ どのようなリカレントニーズがあるか大学も分からないので、市が中心になってリカレント講座を企画頂くとよいのではないかと。
- ・ 大学では社会人大学やカルチャーセンターの高度版をやっているが、もう少し敷居の低いものがあったらいいと思う。

【高校と大学の連携】

- ・ 大学が気にしているのは高大連携。西宮の高校と大学をマッチングしていくこともありではないかと。

■各取組みに対する意見など

【西宮の地域特性を活かした意見の聞き方】

- ・ 若いママさん達が集っているという西宮の地域特性を活かして、そういう方が集る場所をつくって意見を聞くといいのではないかと（西宮ガーデンズに仮設テントを立てるとか）

【保育所の防音対策の検討】

- ・ 保育所を建てるときに地域の方から反対を受けるとあると思うが、保育所の壁に吸音材を貼ると声が響かなくなり、子供の声も小さくなったという事例がある。そのような対策もしている先端の保育所ですよということもアピールできるので一度検討してみてはどうか

【西宮の多様性を踏まえた都市ブランドの発信】

- ・西宮のブランドは南部のごく限られた地域のイメージがある。それは悪いことではないが、まちとしての多様性をアピールできていない気がする。
- ・必ずしも西宮の市域にこだわらず、神戸市北区や三田も含めた六甲山の北側ブランドというものを意識したら、西宮は両方を持っているといういい方もできるのではないか。

【北部地域の活性化】

- ・非常に高くオリエーターを持った消費者がいる都市で、北部のような農業のエリアがあることは非常にメリット。
- ・オーガニックとかライフスタイルにアピールできる都市型近郊農業の取組みが進めばいい。
- ・消費者と生産者が直接接することができるマルシェがいろんな所にできるとよい。
- ・農業は観光や余暇活動の意味でもクリエイティブな力がある。健康年齢を伸ばすことにもつながるのではないか。
- ・銀行でも近郊農業は着目しているが、地元の既得権との問題が結構あり、思ったようにうまくいかないと聞く。
- ・北部でセンスのよいお店を開いてくれる人を誘致することも非常にいいと思う。そこに行ってでも買いたいというお店が1軒でもあると、それを発信することで同じような感性の高い人たちが集ってくる。
- ・北部の開発のターゲットは岡山とか北の方ではないか。北関東や東北の地方都市と同じく、西宮の北部も南部に負けない経済都市になるんだという視点もある。
- ・名塩の工業団地が売れたのも交通ネットワークがあるから、広域を想定したまちのあり方も北部にはある。